

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675400073
法人名	医療法人 一桜会
事業所名	グループホーム さくらのお家
訪問調査日	平成 20 年 7 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 8 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4675400073		
法人名	医療法人 一桜会		
事業所名	さくらのお家		
所在地 (電話番号)	鹿児島県始良郡蒲生町上久徳2511-2 (電話) 0995-52-8129		
評価機関名	特定非営利法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市 城山町一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年8月19日

【情報提供票より】平成20年6月20日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 11 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	12,000円(水道光熱費)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月20日)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉留クリニック・たがた歯科医院
---------	-----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた静かな住宅街の中に建っている開設9年目のユニットは、一般住宅のような作りで、開設3年目のユニットは、天井が高く吹き抜けになっていてロジックの様な作りになっている。2つの住宅は裏口から行き来することが出来る利用者は交流を楽しんでいる。「いきいきと日々健やかに楽しい暮らし」の理念を実践すべく職員は、折り紙を使ってみんなで行う壁画作りが好きなユニットと、天気の良い日にはみんなで出かけるのが好きなユニット、それぞれの特徴を生かした支援を行っている。「親を入れたい」「自分たちが入りたい」と思えるようなホーム作りを心がけている。また、母体が医療法人の為、緊急時や終末期にも安心できる体制が整っているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善点は7点あったが、改善シートを活用して話し合いを行い改善された点もあるが、継続中もある。運営推進会議を活かした取り組みは、今年度より2ヶ月に1回の開催とし、市町村との連携では福祉課担当者に運営推進会議の出席を働きかけ参加に至り、水分確保はチェック表に記載するなど、改善している。運営に関する家族等意見の反映と災害対策については、取り組み中と検討中である。これからの継続的取り組みを期待します。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価に対する意義を理解し全員で自己評価に取り組んでいる。自己評価を通して足りない事を発見し、改善に向けて話し合いを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成20年度より2ヶ月に1回運営推進会議を行うように改善された。民生委員、公民館長、包括支援センター職員、介護保険課職員、家族代表、管理者が出席して行われている。事業所の現状報告や行事報告などを行い、地域より行事の情報を得ている。地域代表から、避難訓練に地域の方にも参加してもらい応援体制を整えたらどうか、と意見が上がり、今後地域の方々と一緒に避難訓練を行うことを検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は特に作られてはいないが、面会時には意見や要望など伺うようにしている。その際、家族が話し易いような雰囲気作りを心がけている。意見や要望があった場合には、苦情受付表に記載しミーティング等で改善に向けて話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し地域の一人として総会やお花見会、公園の清掃活動などに参加したり、ホームの行事のお月見会や敬老会に参加してもらって共に交流をしている。また、地域のボランティアに来てもらい馬踊りを楽しんだり、小、中学校の生徒の職場体験を受け入れたり、季節の野菜を頂いたり、六月灯の手伝いに行ったりと日々の生活の中で交流し連携を深めている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設9年めに入り、地域との付き合いも行われており、住み慣れた町で、「生き生きと日々健やかに楽しい暮らし」という理念を作り上げている。		地域との繋がりも深められつつあり、交流が進んでいる状況ですが、地域密着の文言を理念に加えることでより明確化されることを望みます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等で再確認し、個々の持ち味を出して生活できるように生活歴を大切にしながらケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し総会や花見、公園の清掃に参加したり、事業所が主催するお月見会や敬老会に地域の方を招いて交流を深めたりしている。地域のボランティアに来てもらい「馬踊り」に利用者は喜んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で少しずつ取り組むことにより、ケアについて出来ていないことに気づき話し合いをしたり、反省することでケアの向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度から2ヶ月に1回、推進会議を行うようになり、市の介護保険課の職員にも参加を働きかけ参加してもらえるようになった。他に民生委員、公民館長、地域包括支援センター職員、家族代表が参加している。地域代表の意見として、避難訓練に地域の方に参加してもらい応援体制を整えたらどうか、という内容で、ただいま取り組み中である。		

鹿児島県 グループホームさくらのお家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加を働きかけ今年7月に福祉課担当者に参加して貰うことができ、今後もパンフレットや事業所の便りを持参したり、行事に参加してもらえるように働きかけ、良い関係作りができるように取り組み中である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用請求書と一緒に利用者の日々の暮らしの様子の写真や利用者の手紙、金銭出納長のコピー、健康状態、職員の異動等、担当者が近況を書いて郵送している。また、個々に応じて電話やFAXで報告することもある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会としては発足していないが、行事に家族が集まる機会に意見を求めたり、面会時にはなんでも話してもらえるように雰囲気作りを心がけている。		意見箱も設置していたが苦情や意見などが寄せられず、今は撤去している。家族が集まる行事の時に家族だけで話せる機会をセッティングするなど、意見を出してもらえるように工夫されることを期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職に伴う引継ぎの期間は十分とるようにしているが、法人内の異動がある時は、異動で来る職員に何日か研修にきてもらい馴染んでもらうように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとり一人の力量に応じて段階的な研修を受けられるように勤務の調整をしている。法人内の研修についても年4、5回行うように年間計画がなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会主催の研修会に参加し情報交換を行っている。他のホームの職員が何回か見学に来られたことはある。		地域の同業者との交流や職員同士の相互訪問等の機会を作ることで、お互いの良い所を学ぶことができサービスの質の向上に繋がることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に何度か来所してもらい利用者と一緒に食事をしたり、お茶を飲んだりして好きなだけいてもらうようしながら、徐々に馴染みながら安心して入居できるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>梅干の作り方やにがりの漬物の漬け方、餅の丸め方、料理の味付けなど利用者に教えてもらうことが多くあり、ケアで介助した時などは利用者から優しい言葉をかけてもらっている。また、利用者同士支え合う姿を通して、職員は癒され、励まされている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアプラン作成時には本人の意向を確認し作成しているが、日々の暮らしの中でゆったりくつろいでいる時や、お茶の時など、何をしたいか本人に聞いて支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスには、本人、家族にも参加してもらい、本人の要望や職員の意見を反映した介護計画を作成している。利用者によっては主治医や看護師の意見を反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>急に変化が生じた場合には、サービス計画書に赤ペンで書き入れ変更している。変化のない利用者においても、6ヶ月から1年で見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を活かして、1週間に1回看護師による健康チェックや2週間に1回往診に来てもらっている。家族の要望があれば通院介助や、墓参り、空港への送迎なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかっていた医師がかかりつけ医となっている。体調急変時の医療体制は整っている。職員が通院介助を行った場合や、家族が行った場合でも情報を共有し家族、医療機関とも関係を密にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成し、家族にも説明している。各ユニットで看取りをおこなっており、職員に対しても緊急時の対応など主治医と話し合いを行っており、情報の共有もしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しプライバシーを損ねるような声かけや行動はなされていない。洗面台がリビングから見える位置にあるので、特に口腔ケアについても注意を払っている。個人情報の観点から記録物の取り扱いや保管についても適切に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者が自分のしたいことができることがその人らしい暮らしと考え、利用者から何をしたいかを聞き希望に添えるように支援している。畑仕事が気になるという方には、自宅に連れて行き畑仕事をして頂いたり、買い物、散歩、絵を描いたりとその人らしい暮らしを大切にしている。		

鹿児島県 グループホームさくらのお家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は個々の力量に応じて、味見や下ごしらえ、お箸をくばったり、盛り付けをしたり、下膳をしたりと手伝っている。時には、外食を楽しんだり、誕生会に出前をとったりして職員と共に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は設定せず、利用者の希望に合わせて支援している。入浴拒否される人には、異性の職員から声かけしたり、安心して入れる雰囲気作りをするなど工夫している。入浴の順番は公平になるように職員が配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はひとり一人の生活歴を把握しており、得意分野が活かされるような場面作りを心がけている。梅干作りやふくれ菓子作り、十五夜の団子作りなどでは指導を仰ぎ、カラオケが好きな人には歌ってもらい、書道や絵をリビングに貼りだしたりと気晴らしの支援もおこなっている。また、洗濯や掃除などの役割をもってもらい活力のある生活ができるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調を考慮しながら、近くの公園まで散歩に行ったり庭で外気浴したり、ドライブに行ったりと日常的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向にある方の把握はされており見守りがなされている。日中鍵はかけず、玄関にはチャイムがつけられ、ユニットを繋ぐ裏口には鈴をつけ、外出をいち早く知り対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、避難訓練を行っている。また、利用者をどのように避難させるかというマニュアルを作成している。11月には地域の方も参加して避難訓練を行う予定にしている。非常時は消防への通報設備も整っている。食糧の備蓄については検討中である。		

鹿児島県 グループホームさくらのお家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士に献立を作ってもらっている。水分については1日1200ccを目安にしおり、水分確保がむずかしくなった時には、チェック表をつけ管理している。減塩の方に対しては、味噌汁を薄めたり、刻み食にも対応している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットそれぞれ違う作りになっているが、共用部分のトイレは、背もたれがついて手すりのバーが降りるようになっているため立ち上がりやすくなっている。大きめの日めくりカレンダーが日付を伝えている。壁には折り紙で作った、季節の花々の壁掛けや花火のきり絵が飾られ、季節感を伝えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みの部屋には使い慣れた布団を敷いて、自分で上げ下ろしされる方、好きな色のカーテン、ソファや使い慣れたタンスなどを持ち込んでいる。趣味で行っていた三味線や刺し子の作品を暖簾として使うなど、自分らしく居心地よく過ごせるような工夫をしている。		